

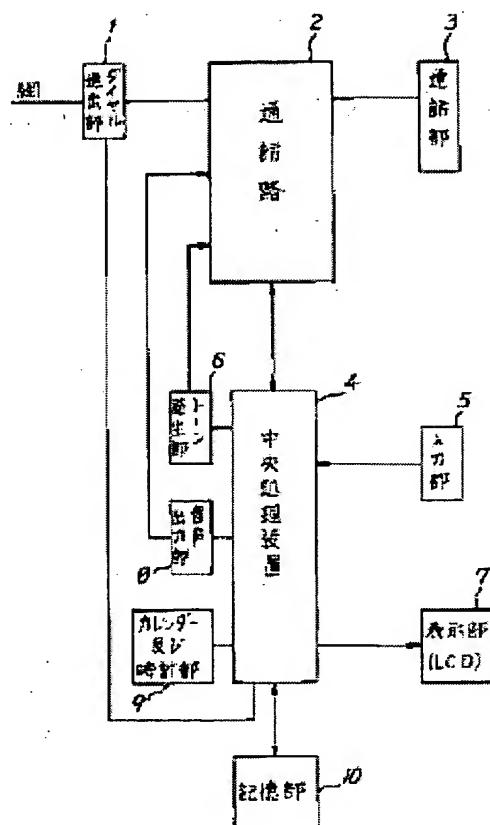
TELEPHONE SET

Patent number: JP6177947
Publication date: 1994-06-24
Inventor: TANAKA SHINICHI
Applicant: HASEGAWA ELECTRIC CO LTD
Classification:
 - international: H04M1/00
 - european:
Application number: JP19920321928 19921201
Priority number(s): JP19920321928 19921201

Report a data error here

Abstract of JP6177947

PURPOSE: To obtain a telephone set able to simply recognize a district name of an opposite district, month and day, weekday or time at the execution of call transmission reception, before dialing or during talking. **CONSTITUTION:** For example, in the case of dialing, when a caller enters a destination telephone number by using an entry section 5, a central processing unit 4 obtains the entered destination dial number and calendar and time information at that point of time for the caller from a calendar and clock section 9. The central processing unit 4 retrieves a relevant opposite party district name and calculates a current month day, weekday or time at the opposite district based on the information. The central processing unit 4 converts the obtained information into a display form and displays the form visually on a display section 7 or displays the result by a speech section 3 in a voice audibly through a channel 2 by a sound output section 8.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-177947

(43)公開日 平成6年(1994)6月24日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 M 1/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

R 7117-5K

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平4-321928

(22)出願日 平成4年(1992)12月1日

(71)出願人 391010208

株式会社長谷川電機製作所

東京都品川区西五反田2丁目18番2号

(72)発明者 田中 伸一

東京都品川区西五反田2丁目18番2号 株

式会社長谷川電機製作所内

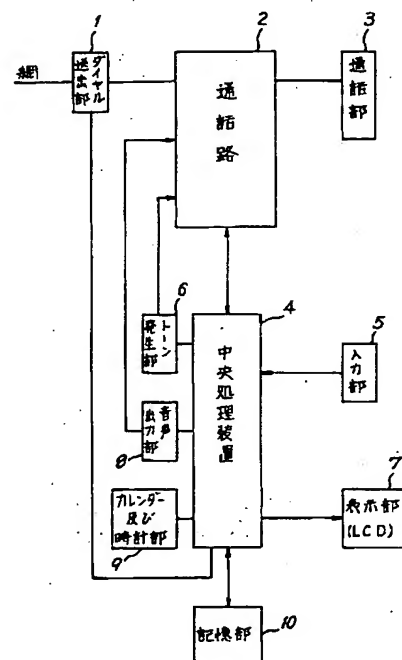
(74)代理人 弁理士 杉村 暁秀 (外5名)

(54)【発明の名称】 電話装置

(57)【要約】

【目的】 発着信時、発信する前からまたは通話中に、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を簡単に知ることができる電話装置を提供する。

【構成】 例えば発信時なら、発信者が入力部5により、相手先番号を入力したとき、中央処理装置4は、入力された相手ダイヤル番号と、カレンダー及び時計部9より発信者のその時点でのカレンダー及び時刻情報を得、これらから中央処理装置4にて、対応する相手地域名称の検索、相手地域での現在の月日、曜日または時刻の算出をする。中央処理装置4では、得られた情報はこれを表示形式に変換し、表示部7に視覚的に表示し、または音声出力部8より通話路2を通して、通話部3に音声にて聴覚的に表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 相手先番号をダイヤルする入力手段と、
入力された相手先ダイヤルより相手地域の地域名称、月
日、曜日または時刻を求める手段と、
かく求められた地域名称、月日、曜日または時刻を知ら
せる通知手段とを備えていることを特徴とする電話装
置。

【請求項2】 着信時、発信者である相手の当該相手先
番号が送られてくる網に接続される電話装置であって、
網より送られて来た相手先番号を受信する手段と、
受信した相手先番号より相手地域の地域名称、月日、曜
日または時刻を求める手段と、
かく求められた地域名称、月日、曜日または時刻を知ら
せる通知手段とを備えていることを特徴とする電話装
置。

【請求項3】 通信中に相手端末に、相手地域の地域名
称、月日、曜日または時刻データを返送するよう要求を
出す手段と、
相手から返送されて来た地域名称、月日、曜日または時
刻データを表示する表示手段とを備えていることを特徴
とする電話装置。

【請求項4】 発呼者から送られて来た相手先番号を受
信する手段と、
受信した相手先番号より相手地域の地域名称、月日、曜
日または時刻を求める手段と、
かく求めた相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻
データを、発呼者に対し送信する手段とを備えているこ
とを特徴とする電話装置。

【請求項5】 発信時または着信時に、相手地域の地域
名称、月日、曜日または時刻データが送られてくる網に
接続される電話装置であって、
網より送られて来た相手地域の地域名称、月日、曜日ま
たは時刻データを受信する手段と、
受信した相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻デ
ータを知らせる通知手段とを備えていることを特徴とす
る電話装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電話装置に関し、特に
通信先の地域名称、月日、曜日または時刻を適切に認識
させるよう報知することを可能ならしめた電話装置に関
するものである。

【0002】

【従来の技術】近年の情報化、国際化社会の進展、到来
に伴い、電話機にて国際発信をする機会も増えて来てい
る。このような中で、従来の電話装置において、時刻
（自分の地域の現在時刻）を表示する機能（時刻表示機
能）をもつものや、通話時間を表示する機能（通話時間
表示機能）をもつものはある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、このものでは、
上述のように国際化社会において増々国際電話が増
加する状況下では、充分な対応は望めず、例えば国際発
信の場合、電話装置特有の機能である、発信者優位の立
場から通信先の事情を考慮せず発信し、迷惑電話等とな
ることが多々ある。

【0004】例えば、発信側で相手国の時刻も考慮せず
に電話をかけたため、相手国側がその時、丁度深夜であ
って、従って通信先の相手は睡眠中であった場合、相手
に不快な思いをさせてしまうことがある。また、相手と
通話となったとき、時差があるため適切な挨拶ができな
いという不便さもある。更には、相手と月日及び曜日が
異なるために、会話に誤解が生じるおそれもある。

【0005】ここで、例えば国際電話に多少慣れた者なら、
時刻の異なる地域に電話をかける場合は、時刻換算
表により自分で事前に相手地域の現在時刻（あるいは、
該当する場合は月日、曜日）につき調べ、計算するとい
う方法をとることもでき、現にそれが行われてきたが、
しかし、自分で調べることは、手間がかかることでもあ
り、甚だ煩雑である上、間違いの生ずるおそれもある。

【0006】特に、通信サービスの発展で国際電話も容
易になってきている今日においては、慣れていない者で
も容易に国際発信できることから、前述のような迷惑電
話となるケース（例えば、発信者側が昼で、着信者側が
深夜など）が生ずる傾向は大であるといえるし、かつま
た、そうした者にとっては、上記の時刻換算表による対
応は尚更煩雑なものとなる。

【0007】また、前記した月日、曜日、時刻の違いに
起因する挨拶や誤解等の問題は、着信者側の立場でみた
場合にも同じようなことがいえるのであり、例えば相手
と通話となったとき、会話中、相互に誤解するといった
おそれはある。

【0008】また、時刻換算表を用いると、たとえ発信
者側は電話をかける前にそれにより調べて予め相手地域
の月日、曜日または時刻を正確に認識し把握して、かか
る状態で電話をかけられるとしても、しかし、従来、着
信者は通話に先立ちその相手側（即ち、発信側）につい
て、その地域、現在時刻や月日、曜日を知ることとい
うこともできない。

【0009】発信時、発信前、着信時あるいは通話中に
も、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を簡単
に知ることができると利便性が高められるが、従来で
は、前述のとおり時刻表示（自己の地域の時刻表示）
、通話時間表示をするに止まり、相手地域の地域名
称、現在時刻や月日、曜日を表示するといった機能まで
はもってはいない。

【0010】本発明は、上記のような点に鑑みなされた
もので、上記の如き不利、不便を解消し、発着信時、発
信する前からまたは通話中に、相手地域の地域名称、月
日、曜日または時刻を簡単に知ることができるようにす

ることを目的とするものである。

【0011】

【課題を解決するための手段】本発明によって、下記の電話装置が提供される。相手先番号をダイヤルする入力手段と、入力された相手先ダイヤルより相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を求める手段と、かく求められた地域名称、月日、曜日または時刻を知らせる通知手段とを備えていることを特徴とする電話装置、着信時、発信者である相手の当該相手先番号が送られてくる網に接続される電話装置であって、網より送られて来た相手先番号を受信する手段と、受信した相手先番号より相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を求める手段と、かく求められた地域名称、月日、曜日または時刻を知らせる通知手段とを備えていることを特徴とする電話装置、通信中に相手端末に、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを返送するよう要求を出す手段と、相手から返送されて来た地域名称、月日、曜日または時刻データを表示する表示手段とを備えていることを特徴とする電話装置、発呼者から送られて来た相手先番号を受信する手段と、受信した相手先番号より相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を求める手段と、かく求めた相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを、発呼者に対し送信する手段とを備えていることを特徴とする電話装置、及び、発信時または着信時に、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データが送られてくる網に接続される電話装置であって、網より送られて来た相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを受信する手段と、受信した相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを知らせる通知手段とを備えていることを特徴とする電話装置である。

【0012】

【作用】本発明によって、発信着信時、通話中あるいは発信前に、相手地域の地域名称、相手地域の現在の月日、曜日または時刻を、当事者に知らしめることが可能である。会話の中で月日、曜日または時刻の違いによる誤解を生じることも未然に防げ、また、適切な挨拶等ができることは、会話をスムーズに運ぶことに役立つ。また、発信時相手を呼び出す前に、相手地域の月日、曜日または時刻を確実に知ることができると、発信者側が昼で着信者側が深夜のために相手に不快な思いをかけるといったケースも未然に防止させ得る。また、発信時、相手地域名称が確認できると、これは誤ダイヤルの防止に寄与し、着信時、相手地域名称が確認できることは、スムーズな応答を可能ならしめる。

【0013】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づき詳細に説明する。図1は、本発明の一実施例を示すブロック図で、発信者が相手先ダイヤル番号を入力し、発信者側電話装置に備わっているカレンダー、及び時計情報より、相手地域の地域名称、月日、曜日、時刻を算出し、表示

する場合の構成を示す。

【0014】図1において、ダイヤル送出部1は通話路2を介し通話部3と接続され、ダイヤル送出部1及び通話路2は中央処理装置4と接続されている。中央処理装置4にはまた、ダイヤル入力をする入力部5と、トーン発生部6と、例えばLCDの表示部7と、音声合成のための音声出力部8と、カレンダー及び時計部9と、記憶部10とが接続されている。

【0015】通話部3、入力部5は、例えば図2の電話機の場合には、ハンドセット21及びスピーカ22を含んで通話部を、またボタンダイヤル23を含んで入力部を、夫々構成することができる。また、表示部7には、例えば漢字表示が可能なディスプレイ24（日本国内使用の場合）を用いることができる。入力部5はまた、各種機能ボタン25を含ませることができる。

【0016】本実施例においては、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を発信の際に操作者（発呼者）に知らせるため、中央処理装置4は、相手先番号がダイヤル入力された場合に、入力された相手先ダイヤルより相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を求め、その求められた地域名称、月日、曜日または時刻を知らせるべく、通知手段としての表示部7及び/又は音声出力部8を制御する。かかる制御のため必要なデータ、処理プログラムは、記憶部10に予め格納しておくことができ、図3にその一例を示す。

【0017】発信者が入力部5により、相手加入者番号を入力したとき(S1)、中央処理装置4は、入力された相手加入者番号と、カレンダー及び時計部9より発信者のその時点でのカレンダー及び時計情報（現在時刻）を得、これらから中央処理装置4にて、対応する相手地域名称の検索、相手地域での現在の月日、曜日または時刻の算出をする(S2)。

【0018】地域名称の情報については、国際発信の場合の国番号、エリアコードで求めることができる。月日、曜日、時刻の情報に関しては、発信者の現在時刻を基準に、対応相手地域との時差の値に応じ演算処理で求めることができる。

【0019】しかして、それを報知するよう、表示処理を実行して知らしめる(S2)。即ち、更に、中央処理装置4では、得られた情報はこれを表示形式に変換し、表示部7に視覚的に表示し、または音声出力部8より通話路2を通して、通話部3に音声にて聴覚的に表示する。

【0020】上述の如く、入力部5よりダイヤルされた相手先番号を基に、中央処理装置4にて、自己がもっているカレンダー及び、時刻データから相手先地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを算出する。算出された該当のデータは、表示部7によるLCDの画面表示または、音声出力部9による音声合成により通話路2を通して、あるいは好ましくは両者を併用して操作者に通知される。

【0021】LCDの画面の様子は、例えば次のようなものにすることができる。

「画面表示例」

イギリス ロンドン

午前 9:30 10月 6日 (火)

また、音声による場合も、本例のように地域名称、時刻、月日、曜日の要素全てを対象とするなら、上記内容事項に準じたものとすることができる。

【0022】このようにして、相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻を知るために、発信時のように予め相手先加入者番号が分かっている場合は、自己が持っているカレンダー及び、時刻情報とにより相手先地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを算出し、表示するようにし、これに接した発信者は、相手地域の地域名称、相手地域の現在の月日、曜日または、時刻を簡単、確実に知ることができる。

【0023】発信者は、時刻の異なる地域に電話をかける場合でも、時刻換算表により自分で調べ、計算するというような手間のかかる、かつ間違いの生ずるおそれもある方法によらないで済むのであり、そのような不利、不便を取り除け、発信時に、相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻を知る必要がある場合においても、よくそれに容易に応えられる。

【0024】相手と通話となったとき、時差があるため応接した挨拶はそれが適切なものではなかったというような事態も避け得るし、会話の中で、月日、曜日または時刻が異なるためにその違いにより会話に誤解が生じることも未然に防げ、また、適切な挨拶等ができるため会話をスムーズに運ぶこともできる。

【0025】また、表示部7のLCD画面表示は、通話中においても、表示を継続させておくことができ、発信者は、常に、必要なときはその表示内容を見て確認することも容易にできる。この場合において、相手地域の月日、曜日または、時刻データを、表示開始時点からの通話中の時間経過に伴って更新していくような処理も、自己のカレンダー及び時計部9付のその中央処理装置4にて簡単に実行でき、これによれば、通話となった以後の通信中も常時相手地域のその現時点での月日、曜日または時刻を正確に把握し認識できる。

【0026】また、発信時相手を呼び出す前に、相手地域の月日、曜日または、時刻を確実に知ることができると、例えば、たとえ国際電話に不慣れな者であっても、発信者が昼で着信者が深夜のために相手に不快な思いをかけるといったことも未然に防ぐことができる。もし、知っていればその通信先相手国の時刻を考慮しそのような電話は現にかけなかったであろうのに、それが分からなかったが故に電話をかけてしまって睡眠中の相手に不快な思いをさせてしまうという事態も適切に避けられるのである。

【0027】また、発信時、相手地域名称を上記のよう

に知りそれが確認できることにより、これは誤ダイヤルの防止にも役立つものとなる。即ち、発信者は、所定の相手国または都市にいる相手に電話をしようとして、そこに電話をかけるつもりでダイヤル入力をしたが、前述のようにして通話部3により音声をもって、及び/又は表示部7による画面表示で通知されたその名称は、自分がかけようとした相手先のものとは異なるものであるというときは、その通知に接した時点で誤ダイヤルと分かり、発信者は自分が意図した通りにはダイヤル入力操作をしなかったということが、その名称の異同で簡潔に判断し得る。従って、発信時、相手地域名称が確認できることは、誤ダイヤルの防止につながる。結果、その誤ったダイヤル入力のままの状態であつてしまった場合のようなかかる誤ダイヤルに起因する迷惑電話も防げるものである。

【0028】更に、本実施例においては、次のような図4に示す如き処理(S4～S7)を加味してもよい。即ち、前述の表示処理(図3のS3)で操作者には通知はなされるが、この時点では、相手先番号(通知の対象には相手先番号を含めてもよい)と相手先地域の地域名称、月日、曜日または、時刻を確認するだけでもよく、網に対して相手先番号を送出しなくてもよい。このようにして、発信する前に、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻を確実に知ることができるようになると、発信者は充分に必要な時間的余裕をもって時差などを的確に把握、認識でき、より効果的に応接等もできる。

【0029】しかして、確認後は、発信したい場合は、簡単な操作で発信することも可能である(図4のS4,S5)。この場合、その操作のため、例えば機能ボタン25に一つに発信指示操作作用のものを設けることができる。一方、発信しない場合は、例えば、着信者側が深夜であることが分かったのでその通信先相手国の時刻を考慮して電話をかけないこととしたときや、誤ダイヤルのときで発信指示操作をしない場合には、LCDの表示データは、一定時間経過後、自動的に初期状態としてもよく(同S6,S7)、これにより操作も簡略化できる。

【0030】次に、図5～図7に例をもって示すものは、本発明の他の実施例に係るものであって、相手側端末または網より、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または時刻、もしくは相手加入者番号が送られて来る場合の例である。図5に示すブロック図においては、データ送受信部11を有する。

【0031】本実施例においては、相手側端末または、網より相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻データが送られて来た場合は、該当データを受信部11で受信し、中央処理装置4にて表示形式に変換し表示部7に視覚的に表示し、または音声出力部8より通話路2を通して、通話部3に音声にて聴覚的に表示する(図6)。また、相手番号が送られて来る場合は、該当デー

タを受信した側が持っているカレンダー及び時刻部9より相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻を中央処理装置4にて算出し、表示形式に変換し表示部7に視覚的に表示し、または音声出力部8より通話路2を通して、通話部3に音声にて聴覚的に表示する(図7)。

【0032】電話装置は、着信時に、相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データが送られてくる網に接続されており、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を知らせるため、中央処理装置4は、網より送られて来た相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを受信し(図6のS11)、その受信した相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを知らせるべく、通知手段としての表示部7及び/又は音声出力部8を制御する(同S12)。

【0033】また、着信時、発信者の加入者番号が送られてくる網に接続されている場合は、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻を知らせるため、中央処理装置4は、網より送られて来た発信者の加入者番号を受信し(図7のS21)、その受信した発信者の加入者番号より相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻を求め(同S22)、その求められた地域名称、月日、曜日または、時刻データを知らせるべく、通知手段としての表示部7及び/又は音声出力部8を制御する(同S23)。

【0034】このようにして、相手地域の地域名称、月日、曜日、または時刻を知るために、直接相手端末または接続されている網から、相手地域の地域名称、月日、曜日、または時刻データが送られて来る場合は、該当のデータを受信し表示し、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データが送られて来ないが、相手加入者番号が送られてくる場合は、該当の相手加入者番号と自己が持っているカレンダー及び、時刻情報より、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻データを算出し、表示する。上記構成により、着信時、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻を知ることができるため、同様にして、会話の中で月日、曜日または、時刻の違いによる誤解を生じることを未然に防ぎ、また、適切な挨拶等ができるため会話をスムーズに運ぶことができる。また、着信時、相手地域名称が確認できることは、スムーズな応答が可能となる。

【0035】また、本実施例においても、前記実施例と同様にして、発信時の処理を加えてもよい。発信時または着信時に、相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データが送られてくる網に接続される電話装置において、網より送られて来た相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを受信し、その受信した相手地域の地域名称、月日、曜日または、時刻データを知らせるようにして実施してもよい。発信側、着信側相互で知ることができれば、更に効果的である。

【0036】本電話装置は、次のようにして実施するこ

ともできる。即ち、通信中に相手端末に、相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを返送するよう要求を出し、相手から返送されて来た地域名称、月日、曜日または時刻データを表示するものである。また、発呼者から送られて来た相手先番号を受信し、受信した相手先番号より相手地域の地域名称、月日、曜日または時刻データを、発呼者に対し送信するようにすることができる。いずれも、データ送受信部11を有する構成で実施でき、前者の形態では、通話中にも、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻を簡単に知ることができる。

【0037】なお、本発明は上述の各例に限定されるものではない。例えば、主に国際電話の場合について述べたが、一国内でも時差のあるような場合に適用することを妨げない。例えば、時刻表示をすれば、同様に時刻の違いを明確に認識、把握できる。相手地域名称が分かれば、やはり同様にして、誤ダイヤル防止等に寄与できるものである。また、例えば相手地域名称のみを発着信時または発信する前に聴覚的に認識させ、地域名称を含んでまたは含まずに、月日、曜日または時刻を視覚的に認識させる状態を継続させるような態様としてもよく、視覚的、聴覚的表示の両者を用いるときに知らしめる態様は種々のもので実施することができる。また、本発明は、例えば短縮ダイヤルの場合も適用可能である。

【0038】

【発明の効果】本発明によれば、発着信時、通話中あるいは、発信前に、相手地域の地域名称、現在の月日、曜日または、時刻を知ることができるため、会話の中で月日、曜日または、時刻の違いによる誤解を生じることを未然に防ぎ、また、適切な挨拶等ができるため会話をスムーズに運ぶことができる。また、発信時相手を呼び出す前に、相手地域の月日、曜日または、時刻を確実に知ることができるため、たとえ国際電話に不慣れな者であっても、発信者が昼で着信者が深夜のために相手に不快な思いをかけるといったことも未然に防ぐことができる。また、発信時、相手地域名称が確認できることにより、誤ダイヤルの防止につながり、着信時、相手地域名称が確認できることは、スムーズな応答が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すブロック図である。

【図2】適用できる電話機の一例の外観図である。

【図3】中央処理装置による制御内容の一例の説明に供する図である。

【図4】同じく、他の制御内容の一例の説明に供する図である。

【図5】本発明の他の実施例を示すブロック図である。

【図6】その中央処理装置による制御内容の一例の説明に供する図である。

【図7】同じく、他の制御内容の一例の説明に供する図である。

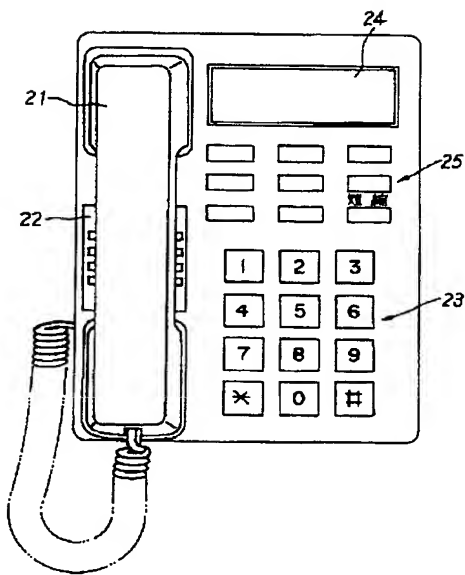
【符号の説明】

- 1 ダイヤル送出处
- 2 通話路
- 3 通話部
- 4 中央処理装置
- 5 入力部
- 6 トーン発生部
- 7 表示部
- 8 音声出力部

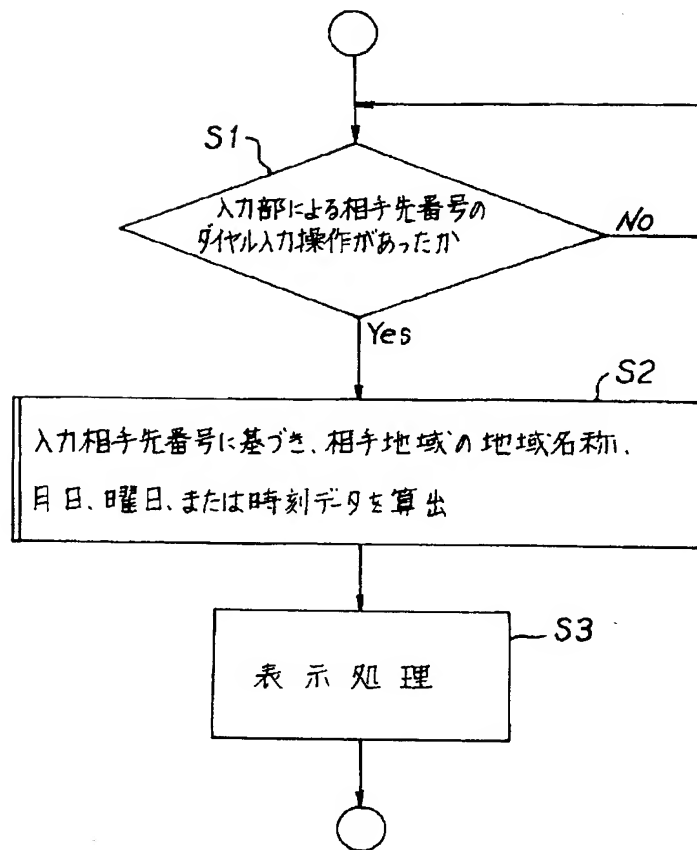
- *9 カレンダー及び時計部
- 10 記憶部
- 11 データ送受信部
- 21 ハンドセット
- 22 スピーカ
- 23 ボタンダイヤル
- 24 ディスプレイ
- 25 機能ボタン

*

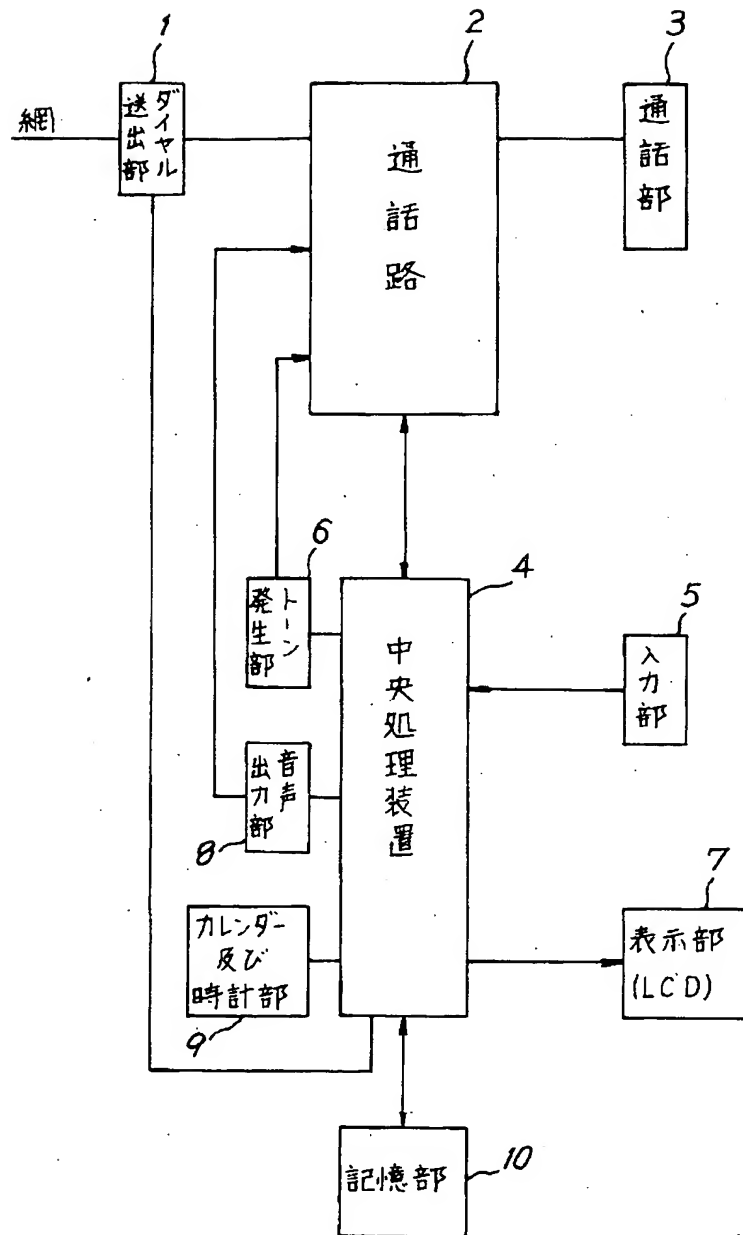
【図2】



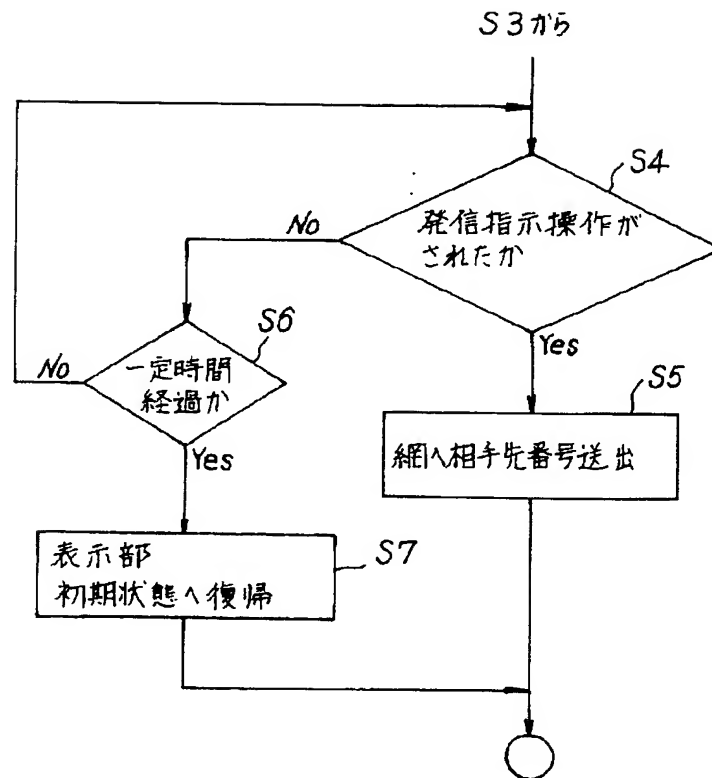
【図3】



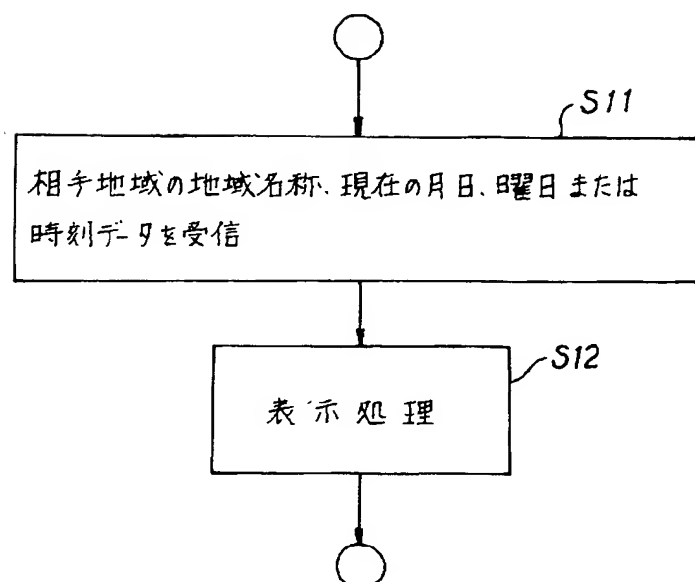
【図1】



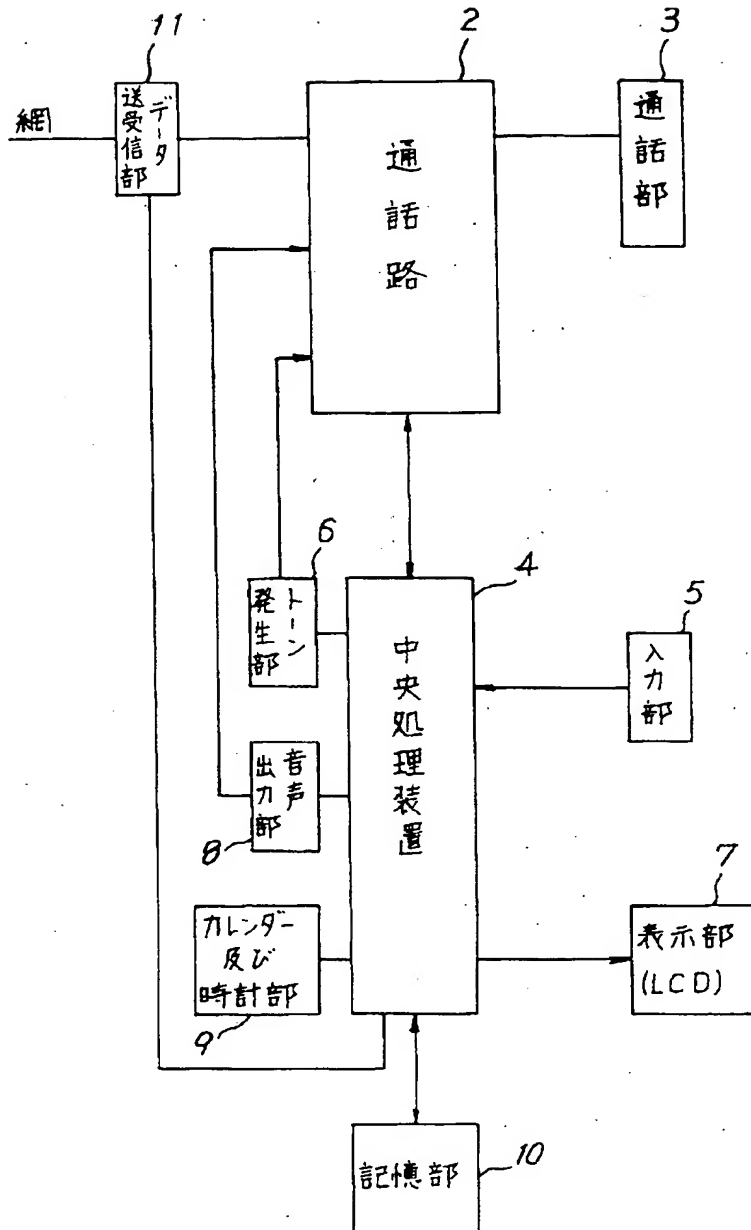
【図4】



【図6】



【図5】



【図7】

